

童 養 婦

陳 紹 鏘

金銀花、滿塘肥
搭起棚子看婆家

看得公々才十九

看得婆々才十八

大叔才學爬

等到冤家身長大

白了頭髮脫了牙。

忍冬の花、土壁にはひわたり

梯かけて姑さんの家見れや

男はやつと十九で

姑はやつと十八

大叔は走れるばかりで

老叔ははへるばかり

夫が大きくなつた時には

私の髪が白くなり、歯が抜けてしまふ。

臺灣の娘仔に當るものを支那では「童養媳」又は「童媳」と謂つてゐる。息子の嫁になる娘(娘仔)を子供の時から迎へて來てみるとかう謂ふ謂である。臺灣の娘仔は實際的な要求にうながされて種々の形態が出來て來たが、支那の童養媳にも又色々の形態がある様である。その内の特異的な一つを次に御紹介する(「民俗週刊」第二期)。

四川省の峨眉山は支那の名山の一つである。南の方、嘉定から百餘里の處に位しである。山に千年の古樹が常に青々と茂りその間を雲がたなびいて誠に奇觀を呈してゐる。峨眉山の前と後の住民は皆山地を耕し、番薯と花生を常食としてゐる。大概のものは自分の畑を所有し、小作をするもの

同じ風習が支那の各地にあることは、七星董氏が北京及南京で採集した次の歌で明かである。

大姐正十七(七京)

有個大姐正十七

過了四年二十一

尋個丈夫矮十歲

她比丈夫大十一

一天井臺去打水

一頭高來一頭低

不看公婆待我好

把你推到井臺去。

趴壁趴壁，兩巴掌

「我是你的妻，

不是你的娘。」

「妾はあなたの妻ですよ。」

「娘さん十八、姫さん三つ

尿にうんこに、抱こにねんね。」

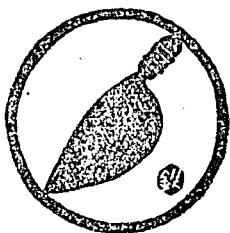
夜中に眼をあけ、おつぱいく
バタ／＼お口を鳴らしてゐる

あなたのお母さんちや無いわいな。」

（筆者は臺北大士俗人種學教室員）

媳婦仔の場合

呂 赫 若



娘さん丁度十七よ
四年経つたら二十一よ
娘さんやつと十になる
嫁さん娘より十一大きい
ある日井戸に行く、水桶に
一方が高けりや一方は低い
舅が妻を可愛がつてくれなきや
お前をこの井戸に笑き落とそ。

少丈夫(南京)

十八歳大姐、三歲郎
把尿、把尿、抱上床
睡到半夜、要仍吃

臺北大稻埕方面では「媳婦仔」を妾女と同義に扱つてゐるが、中部地方ではさういふことはない。娘婦仔も妾女同様に他處から貢ひ受けるには違ひないが、しかし、娘婦仔となると明確に将来は息子の娘にするといふ目的意識があるのであつて、この點が妾女と異なるのである。それが大稻埕となると、特に水商賈の人達に於ては、息子も居ますまたさういふ目的意識もないのに、單な

る妾女でしかないものも媳婦仔と呼んでゐる。まことに奇怪なものである。元來「媳婦」といふ言葉は「息子の妻」といふ意味のもので、中部地方では嚴密にその意味を守つてゐる。

そのためであらう、中部地方では北部に比して娘婦といふものを餘りきかないやうに思はれる。大抵の家庭には、妾女といふものがゐても媳婦仔といふものは少ない。